



三十番鳥歌合

~ 4
165.1



成て何れとわらふとと此系乃きなりり
くもくわらひと流法め神とうけておろひ
りれて常も嬉しとくめとこちちよとれとさうひ
らあとも亮るまよせ川れてゆく三十番の歌
合とせ能てりる

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the word "Hokoku" and other illegible characters.

三十番鳥歌合

判者

題

鳥

五

一番 丸 猪

よ 鶴 二 三

右 永せこのり糸もあしてよふこまおやつらよふ山崎くしつ

もちとらとめちよあひわまのりたひのきわあしあめれ丸
判云は三ののねるともよあふるれもあくる
ておよりねこしともあさくく流波はのよ
あしとあもくこり糸とあぬ糸の山路よふよ
よふれとああしんもあしんもたしひなやか
あつらるとよとあやあしんもあしんもあしんもあしんもあしんも
りおあしんもあしんもあしんもあしんもあしんもあしんもあしんも

りてもすまじいからよおとしはすまじいんちあも疑よ
も侍らありあつわれと悪老しよよあのかは入
らう子母ありてあまこふくはあつれ侍り

二番

た

はくも

必残われあふきとありんと整はくとあふき衣くの袖

た 務

はくも

分れていさふれもい川のほめめて中絶とさきの声
判云 たの儀着はさのハ片の陰よのいんやーはる
張とさあへさうーあー乃袖ひらいてさうーと
さゆたれとたのされていさふれとさうーとさうー
優なれと務たえーたすていさうーたの奇りよ
ゆとさあれとさうーのほしめさうーひて浦きと

何れい玉も葉のうひさうーんちあつてさうー
さあつあふ海んとさうーと風情を本況りゆ
つり又奉歌よさうーさうーはねさうー 寂連法沙
のほのむ乃つり川の川よさうーとさうーさうー
とやあひひなりなすくと大和あはれのを況し
とねる張ありとさうーひはれはさうーのほよあきて
くやーとさうーと浦崎子あつて何事とさうーあつ
たのあもあつてさうーあつてさうーくたの務
たはあつて

三番

た 務

はくも

ちうーなー我あつてたあつてさうー心あはれあつてあつてさうー

あ

あつてさうー

かのうあのみさうーあつてさうーあつてさうーあつてさうー

あるはれを奇のさめりて後一くまもまて凡
花ハ聖業も尾もてらもさうまもさうしつゝさめりて
あまひぢなりされと尾とさるひもよれししてま
まりらんてらもまきさめため方りてくもあう
めさしともある俗信よあうりせうたの跡よ云
原氏物語うめが人めさしあくの甲まきつたあ
あう侍りぬとあうくひんりけ酒さもりやし
といさういりて後判志云うりめさしと云酒
にひ祈りていといまもさる能よああさる
一さしと奇のさめ海をたれとたはまされ
とま一加之風堂り一あうまもたれ在也
なむむ

七考
た 孫

ほくたせ

八月毎よおらぬ袖さうとて夜時さへ遠よしもふ

右

くりか

よとすうりやたがれたまは遠は今もいさうはし
判云 たの奇ともなむして後一それゆよ
めりあうりさるもたてくといと手めさるちもか
とほやと吹きおとたうれうあれともと云
酒をぬりよれり仍るたお孫

八考
た

かこ

ことろのよと色よおとよかまにるもほく暗よむと神よ
あしきまもやたれと後あれと逢時かてはらまもま
判云 おまのまもほく一後まて日奉記のこれ
まふてまひとて時よむり神さうそあう

お 孫

志き

こゝろして意のなりしへよあつや識をわしとて
しるし

十六番 左 猪

とす

かゝりもねる末種ををりねと何中への時れもい
ち

ち海ら

画眉等のちりき散るをえししりあふもねたははの
判云 左の奇ぬるこそをえたるもあつぬ
茶のきの枝をこし一ちりしはをいりちりちり
こゝたの及くぬ枝もあつしりちりちり
れとの向いしちりちり

十五番 左

かゝりもねる末種ををりねと何中への時れもい
ち猪

ち

むしりし末種ををりねと何中への時れもい
判云 左の奇ぬるこそをえたるもあつぬ
茶のきの枝をこし一ちりしはをいりちりちり
こゝたの及くぬ枝もあつしりちりちり
れとの向いしちりちり

十六番 左

とす

かゝりもねる末種ををりねと何中への時れもい
ち猪

ち

えびともまらぬ地をいりちりちり
判云 ちの物ねたははの
かゝりもねる末種ををりねと何中への時れもい
ち猪

ち

いそ何分ていふまゝとせしめ

廿七番 左

猪

炭とり

うけし大のあつちをるぬ炭とらや下はるれん子の絶ぬん

右

塵とり

ふきの山とてまゝらつむらやねれそくまの絶ぬん
判云 今とてハミの家のさとりりしあまの飛信
空のまゝとてらつむらまの絶ぬん
てあ本むち悉皆成佛乃妙あま入るあまられ
むとあまともは炭とらとハよあれ塵とりとハ
下あれ

廿八番

左

猪

あまのり

いそ何分ていふまゝとせしめ
あまのり

右

秋の回のり神るぬまゝとらむし約のりとあ
判云 今とて猪骨ハるれとてたの猪とりあらむ
らハミとて信あと秋の回やりの

廿九番

左

あまのり

角田川とて足とらりしあまのりとてとられ

右

あまのり

星ちぬあはむとあまのりたのね紫の格のまよわたり
判云 左伊ねあまのりとてしひらるる奇美の逸
物なりかまゝとてのね紫もあまのりしはゆ
たるとてはあまのりしあまのりしあまのり

三十番

左

たの

まゝとてあまのりしあまのりしあまのり
あまのり

右

あまのり

あまのり

うきよし袖のぬれてとくともさしあはれぬや梅のむら
判云 ことともらうもさしあはれぬや梅のむら
されずのふさあぬれと流儀判よすさうあはれ
ぢいとあはれぬもさしあはれぬや梅のむら
まいりぬれぬのさしあはれぬや梅のむら
化日の磨髪を待て云々

六の書ハ先師仲原章の歌作なり
あはれぬや梅のむら
あはれぬや梅のむら
あはれぬや梅のむら
あはれぬや梅のむら
あはれぬや梅のむら
あはれぬや梅のむら

文政三 庚辰春

溪云軒

